

2023 年度

講義科目名称： 日本語学概論B

授業コード： 14060

英文科目名称： ---

開講期間	授業形態	単位数	科目必選区分
後期	講義	2単位	
曜日時限			
後期：月曜4限			
配当学科・学年			
教育1(64)、教育1(65)、教育1(66)			
担当教員			
林田 定男			
添付ファイル			

授業テーマ	日本語の文体、日本語の乱れ、方言および日本語学史に関する種々の知識を習得し、日本語への理解を深める。
講義概要	日本語学の基礎的な知識を学ぶ。具体的には、日本語の文体、日本語の乱れ、方言および日本語学史を学び、それぞれの特徴について理解を深める。
到達目標	① 日本語の文体の種類について説明できる。 ② 日本語の乱れについて理解し説明できる。 ③ 方言について理解し説明できる。 ④ 近世以降の日本語学の研究史について理解し説明できる。
評価方法	・ 講義時の課題・小テスト・レポート (50%) ・ 定期試験の結果 (50%) で評価する。
フィードバックの方法	・ 小テストは採点して返却。 ・ 質問等は毎回提出して返却するコメントカードによって行う。必要に応じて受講者全員にも説明する。
評価基準	【最低水準の到達度〈可〉】 ① 日本語の文体の種類について6割方理解し、課題を提出している。 ② 日本語の乱れについて6割方理解し、課題を提出している。 ③ 方言について6割方理解し、課題を提出している。 ④ 近世以降の日本語学の研究史について6割方理解し、課題を提出している。 【最も望ましい到達度〈秀〉】 ① 日本語の文体の種類について9割以上理解し、課題に対して問題意識をもって取り組んでいる。 ② 日本語の乱れについて9割以上理解し、課題に対して問題意識をもって取り組んでいる。 ③ 方言について9割以上理解し、課題に対して問題意識をもって取り組んでいる。 ④ 近世以降の日本語学の研究史について9割以上理解し、課題に対して問題意識をもって取り組んでいる。
テキスト	特に指定しない。
参考書	築島裕『国語学』東京大学出版会 衣畑智秀編『基礎日本語学』ひつじ書房 工藤浩ほか『日本語要説』ひつじ書房 その他、必要に応じて紹介する。
履修上の注意	・ 配付資料はあくまでも補助的なものである。板書やスライド、説明はノートに記録すること。 ・ 授業へはただ参加するのではなく参画するようにすること。 ・ 毎回提出するコメントカードには、質問・授業の要約・感想などを丁寧に書くこと。
準備学習<予習・復習の時間・内容>	2単位の修得には、2時間×15回の授業のほかに合計60時間（4時間×15回）の事前事後学習が必要です。それぞれ30時間の事前学習（予習）と事後学習（復習）を目安に学習に取り組んで下さい。 予習 ・ 提出された事前課題（「文字のはたらき」「六書」など）に取り組む。 ・ レポートの課題について調査する。 復習 ・ 講義後に配布プリントやノートを見てよく復習する。
オフィスアワー等	質問等は、受講者が毎回記入するコメントカード、講義終了時および月曜2限に受け付ける。
備考・メッセージ	課題等は遅れても提出すること。
ディプロマポリシー	学教：DP2、特支：DP2
科目ナンバリング	学教：ED-E-EA1034-A34、特支：ED-E-EA1034-A34

授業計画						
回数	授業形態	担当教員	授業内容	到達目標		
1	講義	林田 定男	オリエンテーション	シラバスを熟読して、講義の目標・進め方・受講者評価について理解できる。		
2	講義	林田 定男	日本語の文体①	宣命体、万葉仮名文、ひらがな文、カタカナ文等、それぞれ特徴について知る。		

3	講義	林田 定男	日本語の文体②	日本古典文学史の流れをつかむ。		
				古典文学作品について理解する。		
4	講義	林田 定男	日本語の文体③	近現代の日本文学史の流れをつかむ。		
				近現代文学作品の文体を理解する。		
5	講義	林田 定男	日本語の文体④	日本語の修辞法を理解する。		
6	講義	林田 定男	日本語の乱れ①	日本語の乱れの概要について知る。		
7	講義	林田 定男	日本語の乱れ②	日本語の動詞の活用の変遷について理解する。		
				ら抜き言葉の概要について知る。		
8	講義	林田 定男	日本語の乱れ③	さ入れ言葉について知る。		
				さ入れ言葉の特徴について説明できる。		
				ら抜き言葉、さ入れ言葉が出現する理由について理解できる。		
9	講義	林田 定男	日本語の方言①	日本語の方言の特徴について知る。		
				方言圏論について説明できる。		
10	講義	林田 定男	日本語の方言②	各方言の特徴について知る。		
				自らの使用する方言の特徴について内省し、説明できる。		
11	講義	林田 定男	日本語の方言③	方言の歴史的な資料について知る。		
12	講義	林田 定男	日本語学史①	近世以前の日本語研究についての概要を知る。		
				キリシタン資料について説明できる。		
13	講義	林田 定男	日本語学史②	近世における活用研究について理解できる。		
14	講義	林田 定男	日本語学史③	近代以降の日本語研究の流れについて説明できる。		
				学校文法の特徴について説明できる。		
15	講義	林田 定男	全体のまとめ	これまでに学習してきたことに関する課題について、まとめて述べることができる。		

授業方法

	学習方法	場所	教員数(補助者数)	教科書以外の教材など	時間(分)
	講義	教室	1	資料を配付し、適宜パワーポイントを使用する。	90分×15